

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	国際文化演習		
英文授業科目名	Seminar in Intercultural Studies		
開講年度	2008年度	開講年次	2年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	中島 義道		
居室	東1-605		

公開E-Mail	授業関連Webページ
nakajima@hc.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
a 主題：異文化コミュニケーションの一環として、さまざまな（広い意味における）文化における考え方、感じ方の違いを学ぶ。 b 達成目標：異文化に対する態度を単に頭で理解するのではなく、具体的に各自の生活の中に生かすこと。

【前もって履修しておくべき科目】
なし。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
コミュニケーション論（できれば）。

【教科書等】
教科書：とくに指定しない。 参考書：そのつど指示する。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【授業内容とその進め方】

a 授業内容

第1回～3回：異文化コミュニケーションの基本的問題点を探る。

第4～14回：毎回、異なった文献を読み、討議する。

第15回： 期末試験

b 授業の進め方：

（電通大生があまり読んでいないと思われる）文化論に関する明治以降の代表文献をかなり読む。そして、それについて討議する。

c 授業時間以外の学習（予習・復習等）のしかた

日ごろから日本文化や国際関係に興味をもつこと。最近では外国人を見かけることが多いので、積極的に彼らとコミュニケーションしてみることを。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

a 評価方法：

毎回、出席を探る。適宜レポートを提出してもらおう。この両者でおよそ40%。期末試験でおよそ60%。

b 評価基準：

欠席が3日を超えないこと。レポートの不提出が1回を超えないこと。その条件を充たす限りで期末試験の成績を加味して、評価する。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話などで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

上にも書いたが、とにかく出席すること、そして、積極的に授業に参加すること。ただ黙って座っているだけの学生は、途中で聴講を断ることがある。

【その他】

とくになし。